

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In the Patent Application of

MIKITANI et al.

Serial No.: 09/653,163

Filed: September 1, 2000

For: LOTTERY SYSTEM UTILIZING
ELECTRONIC MAIL



)
ATTN: APPLICATIONS BRANCH
)
)
)
)
)
)
)
)
)
)

CLAIM TO PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

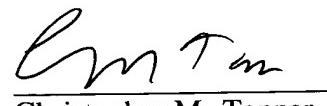
Sir:

The benefit of the filing date of the following prior application filed in the following foreign country is hereby requested and the right of priority provided under 35 U.S.C. 119 is hereby claimed:

Japanese Patent Appl. No. 11-247300 filed September 1, 1999

In support of this claim, filed herewith is a certified copy of said original foreign application.

Respectfully submitted,



Christopher M. Tanner
Reg. No. 41,518

Dated: December 8, 2000

RADER, FISHMAN & GRAUER P.L.L.C.
1233 20TH Street, NW
Suite 501
Washington, DC 20036
202-955-3750-Phone
202-955-3751 - Fax



日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日

Date of Application:

1999年 9月 1日

出願番号

Application Number:

平成11年特許願第247300号

出願人

Applicant(s):

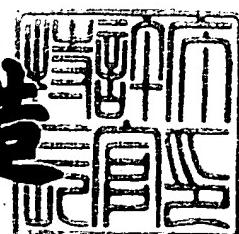
楽天株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2000年 9月 1日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3070047

【書類名】 特許願

【整理番号】 9907003

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

【住所又は居所】 東京都目黒区祐天寺2-8-16 祐天寺K・I・T
楽天株式会社内

【氏名】 三木谷 浩史

【発明者】

【住所又は居所】 東京都目黒区祐天寺2-8-16 祐天寺K・I・T
楽天株式会社内

【氏名】 本城 慎之介

【発明者】

【住所又は居所】 東京都目黒区祐天寺2-8-16 祐天寺K・I・T
楽天株式会社内

【氏名】 畑農 智実

【特許出願人】

【住所又は居所】 東京都目黒区祐天寺2-8-16 祐天寺K・I・T

【氏名又は名称】 楽天株式会社

【代理人】

【識別番号】 100105371

【弁理士】

【氏名又は名称】 加古 進

【電話番号】 03-5957-0971

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 045414

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【物件名】 委任状 1
【援用の表示】 平成11年9月1日提出の包括委任状
【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子メールを利用したくじシステム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 電子メールを利用したくじシステムであって、

特定のユーザに対して、ユニークなアクセス・キーを付した電子メールを送信し、

前記ユーザからの前記アクセス・キーによりくじの応募を識別して、くじの抽選結果を知らせる

ことを特徴とするくじシステム。

【請求項2】 請求項1記載のくじシステムにおいて、

前記くじの結果は、ユーザが応募したときに抽選を行って結果を得ることを特徴とするくじシステム。

【請求項3】 請求項1記載のくじシステムにおいて、

前記くじの結果は、前記電子メールを送る前に、予め決定されていることを特徴とするくじシステム。

【請求項4】 請求項1～3いずれか記載のくじシステムにおいて、

くじへの応募の識別は、前記アクセス・キーと前記電子メールの送付先メール・アドレスとを用いて行うことを特徴とするくじシステム。

【請求項5】 請求項1～4いずれか記載のくじシステムにおいて、

前記アクセス・キーは、前記ユーザが返信する電子メールのアドレスであることを特徴とするくじシステム。

【請求項6】 請求項5記載のくじシステムにおいて、

前記抽選結果は、結果を知らせるページへのURLとアクセス・キーワードとを電子メールにより知らせることにより行われることを特徴とするくじシステム。

【請求項7】 請求項6記載のくじシステムにおいて、

前記結果を知らせるページのURLは、当選および落選別であることを特徴とするくじシステム。

【請求項8】 請求項6記載のくじシステムにおいて、

前記結果を知らせるページに、前記アクセス・キーワードと前記アクセス・キーワードが送付されたメール・アドレスとを入力することにより、当選および落選のページにアクセスできることを特徴とするくじシステム。

【請求項9】 請求項1～3いずれか記載のくじシステムにおいて、

前記アクセス・キーは、応募のためのページのURL又は特定URLにおけるキーワードであり、

前記ユーザが前記URLにアクセスすると、抽選結果を知らせるURLにアクセスできることを特徴とするくじシステム。

【請求項10】 請求項9記載のくじシステムにおいて、

さらに、前記URLで入力される、前記電子メールの送付先メール・アドレスも識別に用いることを特徴とするくじシステム。

【請求項11】 請求項1～10記載のくじシステムにおいて、

応募した前記ユーザのデータを収集して、蓄積することを特徴とするくじシステム。

【請求項12】 請求項1～11記載のくじシステムをコンピュータ・システムに構成させることができるプログラムを記憶した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電子メールを利用したくじシステムであって、特にインタラクティブにくじの結果が判明するくじシステムである。

【0002】

【技術的背景】

最近は、インターネット上で色々なサービスが行われている。図1にインターネットの構成図を示す。インターネット101に接続されたサーバ120から提供されるサービスを、複数のユーザ112および114は、例えばブラウザでアクセスすることにより、利用している。これらのインターネット上に提供されているサービスの1つに懸賞がある。図2にそのサービスを説明する図を示す。

【0003】

従来のインターネット上における懸賞は、まず、参加者が応募してから、当落の結果を知るまでに一定期間の時間が必要であった。これを図2(a)を用いて説明する。図2(a)に示す様に、一般に懸賞は、インターネット上に限ったことではないが、一定の応募期間に応募してきた応募者の中から抽選で事前に告知していた入数分の当選者を選出するという方法によって行われる。そのため、懸賞応募者は応募後、応募期間終了までの一定期間は自分の当落の結果について知ることができなかった。このような従来の懸賞においては、その手間と時間的な問題から参加することをためらう人が少なからずいた。

【0004】

次に、従来の懸賞は参加する人間を事前に限定することが困難であったということが問題点として挙げられる。これを図2(b)を用いて説明する。図2(b)に示す様に、ホームページ上に告知された懸賞は、基本的に誰でも参加することが可能であり、データベースを構成する母集団の属性を懸賞の主催者が操作することは不可能であった。そのため、そこから得られたデータにもとづいたデータベースは有効なものとは言えなかった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

上記のような問題点が従来のインターネット上における懸賞にはあったが、本発明のくじシステムはそれらの問題点を解決することがその目的である。まず、第一に、参加者が懸賞に応募後、当落の結果判明までに一定期間が必要であるという問題点については、応募後すぐに当落が判明するようなくじシステムを提供する。これにより、応募者は懸賞に参加しやすくなる。

次に、主催者が懸賞の対象者を事前に限定することができないという問題については、個人に個別のアクセス・キーを交付して、そのアクセス・キーを保有する人のみが懸賞に参加できるというくじシステムを提供することで解決する。これも本発明の目的である。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記目的を達成するための電子メールを利用したくじシステムであ

って、特定のユーザに対して、ユニークなアクセス・キーを付した電子メールを送信し、前記ユーザからの前記アクセス・キーによりくじの応募を識別して、くじの抽選結果を知らせることを特徴とする。

これにより、くじへの応募者は応募後すぐに結果が判明するとともに、主催者は懸賞の対象者を事前に限定することができる。

【0007】

前記くじの結果は、ユーザが応募したときに抽選を行って結果を得ることもできるが、前記電子メールを送る前に、予め決定しておくこともできる。

くじへの応募の識別は、前記アクセス・キーと共に、前記電子メールの送付先メール・アドレスとを用いて行うことでもできる。

前記アクセス・キーは、前記ユーザが返信する電子メールのアドレスとすることができる。

前記抽選結果は、結果を知らせるページへのURLとアクセス・キーワードとを電子メールにより知らせることにより行われることもできる。

また、前記結果を知らせるページのURLは当選および落選別として、抽選結果もこれとともに知らせることもできる。

前記結果を知らせるページに、前記アクセス・キーワードと前記アクセス・キーワードが送付されたメール・アドレスとを入力することにより、当選および落選のページにアクセスできるようにすることもできる。

【0008】

これらは、電子メールにより応募しているシステムである。これとは別に、電子メールで知らせる前記アクセス・キーを、応募のためのページのURL又は特定URLにおけるアクセス・キーワードとし、前記ユーザが前記URLにアクセスすると、抽選結果を知らせるURLにアクセスできるようにすることもできる。さらに、前記URLで入力される、前記電子メールの送付先メール・アドレスも識別に用いることもできる。

上述のくじシステムでは、応募したユーザのデータを収集して蓄積し、色々と利用することができる。

上述のくじシステムをコンピュータ・システムに構成させることができるプロ

グラムを記憶した記録媒体も本発明である。

【0009】

【発明の実施の形態】

本発明の実施形態を、図面を参照して詳細に説明する。

本発明のくじシステムの処理の概要を図3を用いて説明する。図3(a)は、本発明のくじシステムにおける結果発表の仕方を図示している。図2(a)に示した従来のくじシステムとは異なり、ユーザがくじに応募すると、その直後に抽選等の結果を電子メール等により知らせている。このようにして、ユーザが結果をすぐに知ることができるようにインタラクティブなくじシステムを構築することができる。

また、図3(b)に示したように、本発明のくじシステムにおいては、くじの主催者から顧客や顧客見込みのユーザに対して、くじへの応募のためのアクセス・キー(ID等)を電子メールで送り、くじに対する参加者を制限している。様々な方法により入手した顧客や、見込み顧客のメール・アドレスをもとに懸賞を行えば、従来のインターネット上における懸賞よりも母集団を特定したより正確なデータを収集することが可能となる。また、個別のキーワードを発行することは、懸賞対象者からの返答率を高めることが可能であり、有効なデータの収集にとって効果を發揮する。

【0010】

(実施形態1)

本発明のくじシステムの1形態例を、図4に示した実施形態1の処理フローにより詳細に説明する。ここでは、応募者識別のためのアクセス・キーとして、電子メールのアドレスの一部として使用されるIDを用いている。

1. ID付き電子メールの送信(S202)

本発明のくじシステムは、懸賞主催者が参加者宛に電子メールによってID(アクセス・キー)付きの電子メールを送ることから始まる(S202)。この電子メールが送られた者がくじの参加者である。このID(数字、アルファベット等で構成)は、参加者の電子メールのアドレスに対して1つ、ユニークに割振られている。このIDはくじの応募のための返信用電子メール・アドレス(例:<

XXX@kuji.rakuten.co.jp>XXXがID)になっており、参加者は、このアドレスに対して返信のメールを送信した時点で、初めて応募者となる。

このID付き電子メールは、応募期間の前に一斉に発送したり、応募期間中隨時発送したりすることができる。

【0011】

2. ID付き電子メールの受信(S204)と応募のための返信(S206)

参加者は、懸賞主催者から送られたID付き電子メールを受け取る(S204)。参加者は、送られてきた電子メールを読んだ後、このID宛に電子メールを返信する(S206)ことによって、初めてこの懸賞の応募者となる。返信のためのメールは、例えば、本文には何も書かず、単に、件名や題名(subject)に対して、懸賞応募とのみ書けばよい。しかし、このように件名等に記載することは必ずしも必要ではない。

【0012】

3. 応募者の識別(S208)と当落の決定(S210)

主催者は応募者から返信されてきた電子メールを、特別に設けたIDのアカウントにより受信する。ここでは、IDをかなり大きな桁数で設定することで、参加者以外が適当な番号でくじに応募(適当なIDで送信)しようとするのを非常に困難にし、セキュリティを確保している(あてずっぽうのIDで応募しても、それが発行されたIDであるという確率は非常に低くなる)。IDのアカウントで電子メールが受信されると、IDに対応した参加者が応募者として認識される。また、受信された電子メールのヘッダ部分に記載されている送信元(from)アドレス等から、懸賞電子メールの宛先であることを確認して、IDおよび応募者の電子メール・アドレスの2つを用いることにより、応募者の識別をしてもよい。なお、応募されたIDをチェックしているため、同IDで複数回の応募を行うことは不可能である。

次に、あらかじめ設定されていた当選確率を基に、その応募者の当落を即座に判定する(S210)。これは、例えば、コンピュータで所定の桁数の乱数を発生させ、その発生した乱数により当落を決定する。この当選確率は、発生した乱数のうち、どの数字を当たりとするか等により、自由に設定することが可能であ

る。このため、懸賞ごと、商品ごとに変更することが可能である。

また、単に当選、落選という場合にとどまらず、当選をA賞、B賞のように複数の賞で設定することも可能である。

この抽選結果のデータは、ホームページのシステムにも発生と同時に送られる

【0013】

4. 確認用電子メールの送信（S218）

応募者の当落が決定された後、応募者に対して当落確認ページのURLと、そのURLのページにおいて、当落を確認するために必要なアクセス・キーワードとを電子メール（確認用電子メール）によって送信する（S218）。このアクセス・キーワードは、当選者用と落選者用に別々に設定される（S212、S216）が、応募者はそのアクセス・キーワードを見ただけでは、自分の結果を区別することはできない。上述のように、当たりの賞品が複数ある場合は、それも区別できるようにアクセス・キーワードを設定する。

【0014】

5. 確認用電子メールの受信（S220）と結果確認ページへのアクセス（S250）

応募者は、ID宛に電子メールを送信してまもなく、確認用電子メールを受信する（S220）。その電子メールには抽選結果確認ページのURLとアクセス・キーワードが記載されている。当選商品がA賞、B賞のように複数ある場合は各賞に別々のアクセス・キーワードを用意する。

応募者は、電子メールに書かれている抽選結果確認ページのURLにアクセスし（S250）、そこで確認用電子メールに記載されていたアクセス・キーワードと自分の電子メール・アドレスを入力する（S252）ことで、すぐに自分の当落の結果を知ることができる。

ここで、アクセス・キーワード以外に電子メール・アドレスを入力するのは、電子メール・アドレスによって応募者本人であるということを確認するためである。これによって、アクセス・キーワードを何らかの形で知った人が不正にページにアクセスすることを防止することが可能となる。

【0015】

6. 当選者用ページ、落選者用ページへのアクセス (S256, S258)

アクセス・キーワードを入力すると、サーバは、アクセス・キーワードにより当選者と落選者とを判別し、それぞれのページへアクセスさせる (S254)。このため、当選者は当選者用ページ、落選者は落選者用のページに、それぞれアクセスすることができる。当選者は当選者用ページにおいて氏名、住所等の個人情報を入力することにより商品を受け取ることができる (S256)。賞品がA賞、B賞のように複数存在する場合には、上述の当選者用のページは各賞品別のページとなる。

一方、落選者は落選者用のページにアクセスし、ここで氏名、住所等の情報を入力することによってダブル・チャンスと称する別の懸賞に参加することもできる (S258)。ここで落選者しか参加できない懸賞を設けることによって落選者にも情報を提供してもらうインセンティブを与える。このダブル・チャンスは、例えば一般のインターネット上における懸賞と同じ方式を用い、ある一定期間後応募者の中から当選者を選んで電子メール等で当選を知らせる。

【0016】

7. データベースの蓄積 (S260)

当選者用、落選者用のどちらのページにおいても、応募者は個人情報を入力しなければならないので、主催者側のデータベースには当落両方のデータが蓄積されることになる (S260)。このような懸賞を繰り返し、そこから得られるデータを分析することによってデータベースの精度は高まり、マーケティング活動に有效地に利用することが可能となる。

【0017】

(実施形態2)

本発明におけるくじシステムの他の実施形態を図5のフローチャートに示す。

1. ID付き電子メールの送信 (S302)
2. ID付き電子メールの受信 (S304) とIDへの返信 (S306)
3. 応募者の制限 (S308) と当落の決定 (S310)

上述の処理は、図4に示したS202～S210までの処理と同様の処理を行

っているので、説明を省略する。

ここにおいても、複数の賞品を用意することができる。

【0018】

4. 結果発表メールの送信 (S318)

図5のS310（図4のS210と同様の処理）において、決定された応募者の当落の結果は、即座に結果発表メールによって応募者に伝えられる（S318）。この電子メールには抽選の結果、抽選結果別のページのURL、アクセス・キーワードが記載されている（S312, S316）。このアクセス・キーワードは抽選結果ごとに設定されており、各ページにおいてこのアクセス・キーワードを入力することによって応募者は当選者用、落選者用それぞれのページにアクセスすることができる。当選賞品がA賞、B賞のように複数存在する場合には各賞品ごとのページのURLを電子メールに記載して、それぞれ別々のページにアクセスする。ここで、図4の処理と異なるのは、当選結果を結果発表の電子メールで応募者に知らせていることである。

【0019】

5. 結果発表メールの受信 (S320)

応募者は、ID宛に電子メールを返信後即座に、結果発表メールを受け取る（S320）。そこで抽選の結果を確認した後、このメールに記載されている抽選結果別の各ページのURLにアクセスし、さらに、そのページ上でこれも結果発表メールに記載されているアクセス・キーワードおよびメール・アドレスを記入することで、当選者用、落選者用それぞれのページにアクセスすることが可能となる。

【0020】

6. 当選者用、落選者用ページへのアクセス (S322, S324)

アクセス・キーワードおよびメール・アドレスを入力後、当選者は当選者用ページ、落選者は落選者用のページにアクセスすることができる（S322, S324）。当選者は当選者用ページにおいて氏名、住所等の個人情報を入力する（S326）ことにより賞品を受け取ることができる。当選賞品がA賞、B賞のように複数存在する場合には、各賞品ごとのページにアクセスして、各々の賞品を

受け取る。

一方、落選者は落選者用のページにアクセスし（S324）、ここで氏名、住所等の情報を入力する（S328）ことによってダブル・チャンスと称する別の懸賞に参加することができる。ここで落選者しか参加できない懸賞を設けることによって落選者にも情報を提供してもらうインセンティブを与える。このダブル・チャンスは、例えば一般のインターネット上における懸賞と同じ方式を用い、ある一定期間後応募者の中から当選者を選んで電子メールで当選を知らせる。

【0021】

7. データベースの蓄積（S330）

当選者用、落選者用のどちらのページにおいても応募者は個人情報を入力しなければならないので、主催者側のデータベースには当選、落選両方のデータが蓄積されることになる。このような懸賞を繰り返しそこから得られるデータを分析することによってデータベースの精度は高まり、マーケティング活動に有效地に利用することが可能となる。

【0022】

（実施形態3）

上述の実施形態では、くじへの応募は電子メールで行っている。この実施形態では、くじへの応募は、参加者が応募のためのURLのページにアクセスすることにより行われている。このシステムを図6に示したフローチャートで詳しく説明する。ここでは、応募者識別のアクセス・キーとして、ユニークなURLやアクセス・キーワードを用いている。

【0023】

1. URL付き電子メールの送信（S402）

この実施形態のくじシステムは、懸賞主催者が参加者宛に電子メールによってURL付き電子メールを送ることから始まる（S402）。このURLについては2つの設定の仕方がある。1つめとしては、このURLを参加者ひとりひとりに割り当てる設定である（以下、パターン1）。2つめとしてはくじ応募のURLを固定する設定（パターン2）である。

- ・パターン1 主催者が参加者に送信する電子メールには、参加者の電子メール

・アドレスごとに割り当てられるユニークなURL（応募のためのアクセス・キー）が記載されている。

・パターン2 電子メールには懸賞ページのURL（固定）と電子メール・アドレスごとに割り当てられたユニークなアクセス・キーワードが記載されている。

図6のフローチャートは、双方のパターンを同時に実施した場合の処理を示している。

【0024】

2. URL付き電子メールの受信とURLへのアクセス（S404）

参加者は懸賞主催者から送られたURL付き電子メールを受け取る（S404）。参加者はこのURLにアクセスすることによってはじめて懸賞に応募することが可能になる（以下、応募した参加者を応募者と呼ぶ）。

・パターン1 応募者は受信した電子メールに記載されていたユニークなURLにアクセスする（S408）ことにより、個別認識を行って、くじに応募することができる。また、このページ上において、例えば、URL付き電子メールが送られたメール・アドレスを入力する（S410）こと等によっても、個別認識を行うことができる。

・パターン2 特定のURLにアクセスした（S418）場合は、ここで各応募者を認識する必要があるので、少なくともユニークであるアクセス・キーワードを入力することにより、応募者個人を識別することができる（S420）。また、ユニークであるアクセス・キーワードと、URL付き電子メールが送られた応募者自身のメール・アドレスとを入力することで、応募者を識別することもできる。

【0025】

3. 抽選結果の決定（S412, S422）

パターン1, 2ともにページ上で入力されたメール・アドレスやアクセス・キーワード等をもとに応募者の個別認識を行うことができる。応募者が応募資格保有者であることが確認されると、次に、あらかじめ設定されていた当選確率にもとづいた乱数による確率計算によって抽選結果を決定する（S412, S422）。この当選確率は自由に設定することが可能であり、懸賞ごと、商品ごとに変

更することが可能である。

また、単に当選、落選という場合にとどまらず、当選をA賞、B賞のように複数の賞で設定することも可能である。応募者はページ上で抽選結果を即座に知ることができる。

【0026】

4. 当選者用ページ、落選者用ページへのアクセス (S414, S416, S424, S426)

抽選結果判明後、当選者は当選者用ページ、落選者は落選者用のページにアクセスすることができる。当選者は当選者用ページにおいて氏名、住所等の個人情報を入力することにより商品を受け取ることができる (S414, S424)

一方、落選者は落選者用のページにアクセスし、ここで氏名、住所等の情報を入力することによってダブル・チャンスと称する別の懸賞に参加することもできる (S416, S426)。ここで落選者しか参加できない懸賞を設けることによって落選者にも情報を提供してもらうインセンティブを与える。このダブルチャンスは、例えば一般のインターネット上における懸賞と同じ方式を用い、ある一定期間後応募者の中から当選者を選んで電子メールで当選を知らせる。

【0027】

5. データベースの蓄積 (S428)

当選者用、落選者用のどちらのページにおいても応募者は個人情報を入力しなければならないので、主催者側のデータベースには当落両方のデータが蓄積されることになる (S428)。このような懸賞を繰り返し、そこから得られるデータを分析することによってデータベースの精度は高まり、マーケティング活動に有効に利用することが可能となる。

なお、上述の図6では、パターン1およびパターン2の処理を同時に実装した場合を示しているが、片方のみを実装してもよい。

【0028】

(他の実施形態)

上述のくじシステムにおいて、オプションとして、メールに選択式のクイズを追加することができる。この場合は、クイズの答えごとに異なるアクセス・キー

を通知し、答えごとに異なるアドレスに対して電子メールを返信したり、答えごとに異なるURLにアクセスすることになる。そして、抽選結果の判定の際に正解用のIDに返信されてきたものや、正解用のページにアクセスしてきた応募者のみが抽選の対象となる様に設定される。

【0029】

また、上述のくじシステムのように、くじの抽選を参加者が応募したときに行うのではなく、あらかじめ各参加者に対するくじの結果を決定しておいて、参加者に対してアクセス・キーを付した電子メールの送信を行うこともできる。この場合のシステムフローは、応募のときには抽選を行わず、その応募者に対するあらかじめ決まっている結果を、応募者の識別を行って取り出すこと以外、上述の図4～図6のフローとまったく同じである。

【0030】

なお、上述の図4および図5で、くじを知らせる電子メールを送信する等のシステムと、くじの抽選後にアクセスするホームページを載せたシステムとが異なるサーバとして示しているが、これは共通のサーバ上のシステムとしてもよい。

また、応募期間終了後に応募があった場合には、例えば応募者宛にエラーメール等が返信されるように設定してもよい。

【0031】

(本発明のくじシステムの応用等について)

本発明のくじシステムの応用範囲は、相手先の電子メール・アドレスが判明してさえいれば、電子メールを介したあらゆるサービスに付加することが可能である。相手の電子メール・アドレスさえわかっていてれば、そこにアクセス・キー付き電子メールを送ることでその相手を懸賞の応募者とすることができるからである。その具体的な利用例としては次のようなものが挙げられる。

- ・ メール・マガジン
- ・ メール・ニュース
- ・ グリーティング・カード（年賀状、暑中見舞い、誕生日、結婚、出産など）
- ・ ダイレクト・メール
- ・ オンライン・ショッピングの注文確認、発送情報メール

商品購買のインセンティブ・プログラム（商品購入のおまけ、付録）

【0032】

本発明のくじシステムは、上述の電子メールを介した各種サービスに利用することによって以下に述べるような効果が得られる。

①電子メールを読んでもらう比率の上昇

インターネット上には現在各種情報が氾濫しており、顧客に配信した電子メールを如何にきちんと読んでもらうかということは大きな問題となっている。本発明のくじシステムは顧客に配信するメール・ニュース等の電子メールによる情報発信の際に単なる情報だけでなく、くじに応募できるユニークなアクセス・キーを追加することによって、文面に目を通すことへのインセンティブを高める効果を持っている。現在もメール・ニュース等に懸賞の情報を掲載しているものは多数存在するが、本発明のくじシステムにはくじ参加者個人にアクセス・キーが割り当てられ、当落の結果をすぐに知ることができるというメリットが存在するため、従来の単なる懸賞情報と比較しても顧客が電子メールを読む比率の向上に対する効果は大幅にアップする。

【0033】

②ホームページへのアクセス数の増大

電子メールを読む比率の増大に付随して、ホームページへのアクセス数を増大させる効果がある。懸賞応募者は、最終的に主催者のURLにアクセスすることが求められる。このため、本発明のくじシステムを利用することによって、主催者は自己のホームページへのアクセス数を大幅に増大させることが可能となる。

【0034】

③より正確なデータの蓄積

インターネット上における懸賞の大きな目的の1つとして顧客情報のデータの収集が挙げられる。しかし、これまでの方式の懸賞では応募する人間を限定することが困難であったため、収集・分析するためのデータの母集団を主催者側で操作することは困難であった。これに対して本発明のくじシステムにおいては、参加者を主催者側で決定することができ、ユニークなアクセス・キーを保有していないければ応募することができないため、不正な応募者を排除することが可能であ

る。このため、本発明のくじシステムから得られた顧客データは、従来のインターネット上の懸賞において得られたデータよりも母集団を特定したより正確なものになる。このデータを利用することによって、以後のマーケティング活動が正確かつ効率的なものとなる。

【0035】

④読者がメールを読む時間の把握

本発明のくじシステムにおけるアクセス・キーは、応募者ひとりひとりに割振られているため、メールが返信された時間やURLへのアクセス時間を把握することによって、誰が、いつ電子メールを読んでいるかということを把握することが可能となる。このデータを利用すれば顧客がどのような時間帯にインターネットにアクセスしているかということをある程度予測することが可能となり、これを以後の顧客への情報発信のタイミングの決定に利用することが可能となる。

【0036】

⑤顧客の購入のためのインセンティブ

本発明のくじシステムのアクセス・キーをオンライン・ショップにおいてある特定の商品を購入した顧客などに発行するというサービスを行うことによって、顧客の購入へのインセンティブを向上させることが可能となる。

【0037】

なお、本発明に関するプログラムを格納した記憶媒体から、プログラムをシステムで読み出して実行することにより、本発明の構成をコンピュータ・システムに実装することができる。この記録媒体には、フロッピー・ディスク、CD-ROM、磁気テープ、ROMカセット等がある。

また、本発明のシステムは、単一のシステムにおいても、複数のシステムからなるマルチ・システムにおいても実施することができる。

【0038】

【発明の効果】

上述した本発明のくじシステムは、Web上で行われる宝くじ（スピードくじ）、懸賞等のためのシステムであり、電子メールにユニークなアクセス・キー（電子メール・アドレス（ID）、アクセス・キーワード、URL）を発行し、そ

のアクセス・キーによって抽選結果の判定を行っている。これによって、従来のインターネット・ホームページ上における懸賞とは異なり、当落の結果が一定期間を置くことなく瞬時にわかるとともに、主催者側が懸賞応募者を事前に限定することができる。

【0039】

結果判明が瞬時に行われることによって、参加者は懸賞に参加しやすくなり、懸賞の告知に対する返答率を大幅に上昇させることができるとなる。また、一般にホームページ上において行われている懸賞は顧客のデータベースの構築もその目的の1つとしているが、本発明のくじシステムにおいては参加者を限定できるため、従来の懸賞と比較して、そこから得られるデータベースの情報の正確さは格段に向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】インターネット上のシステム構成を示した図である。

【図2】従来のくじシステムを示す図である。

【図3】本発明のくじシステムを示す図である。

【図4】本発明の実施形態1の処理を示すフローチャートである。

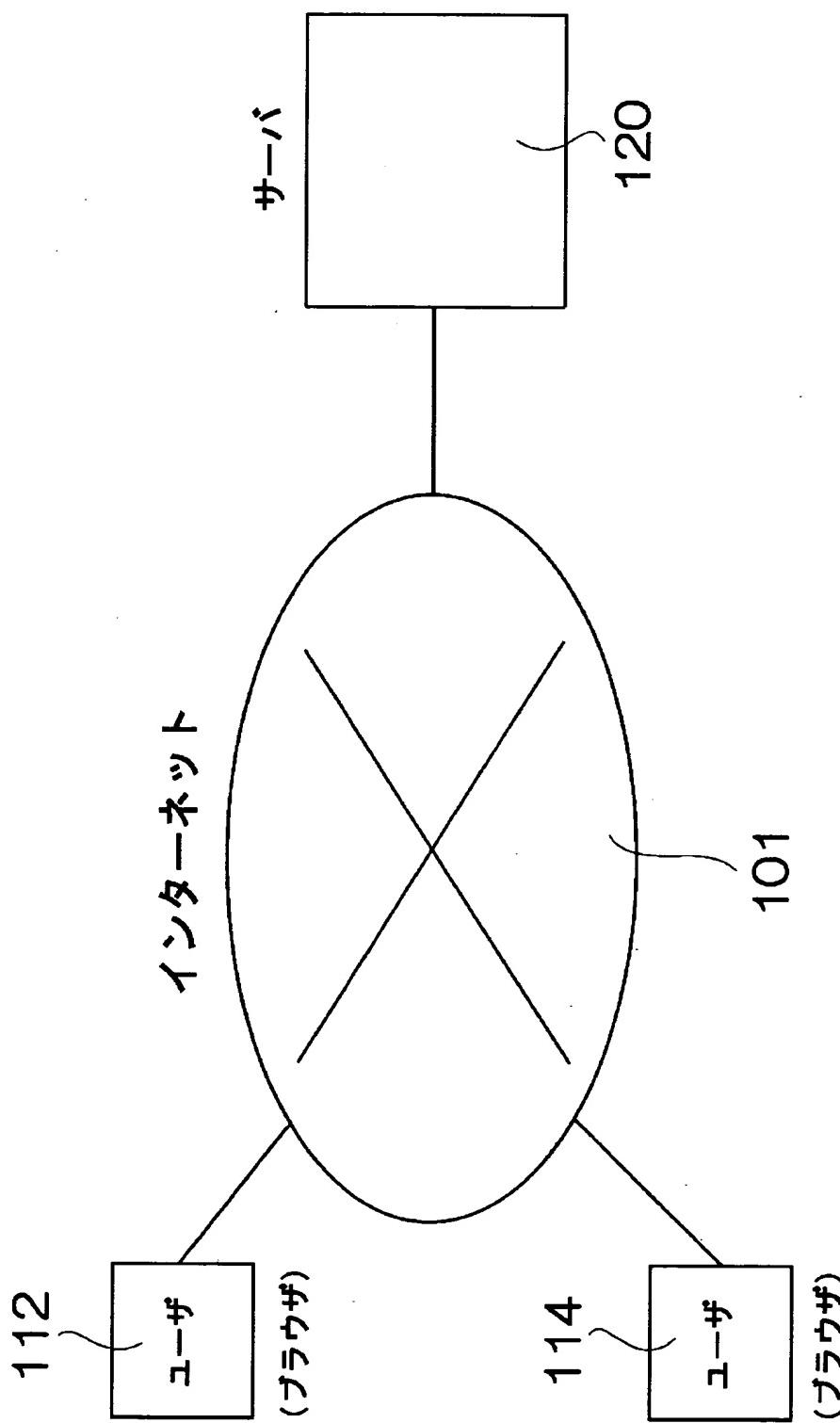
【図5】本発明の実施形態2の処理を示すフローチャートである。

【図6】本発明の実施形態3の処理を示すフローチャートである。

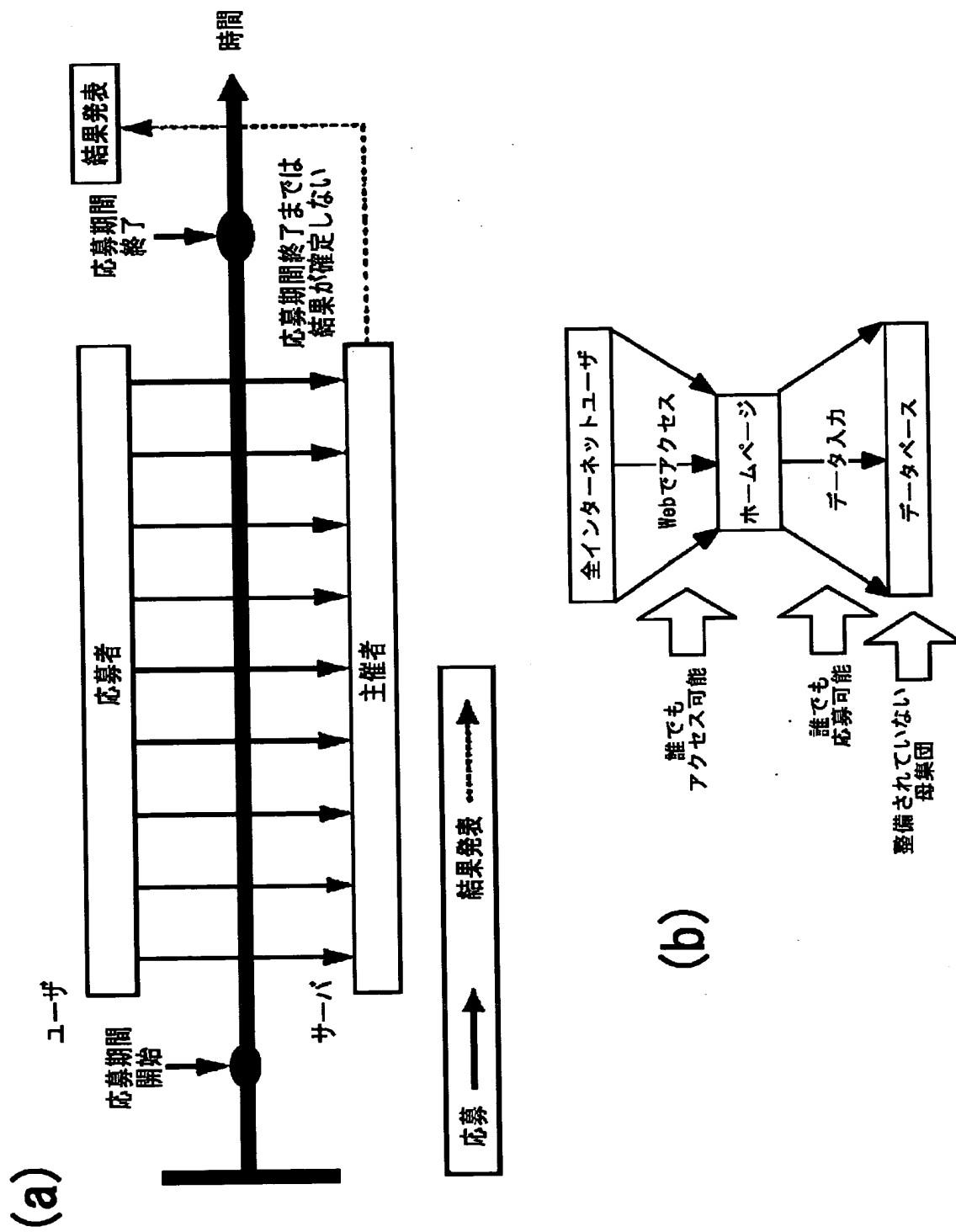
【書類名】

図面

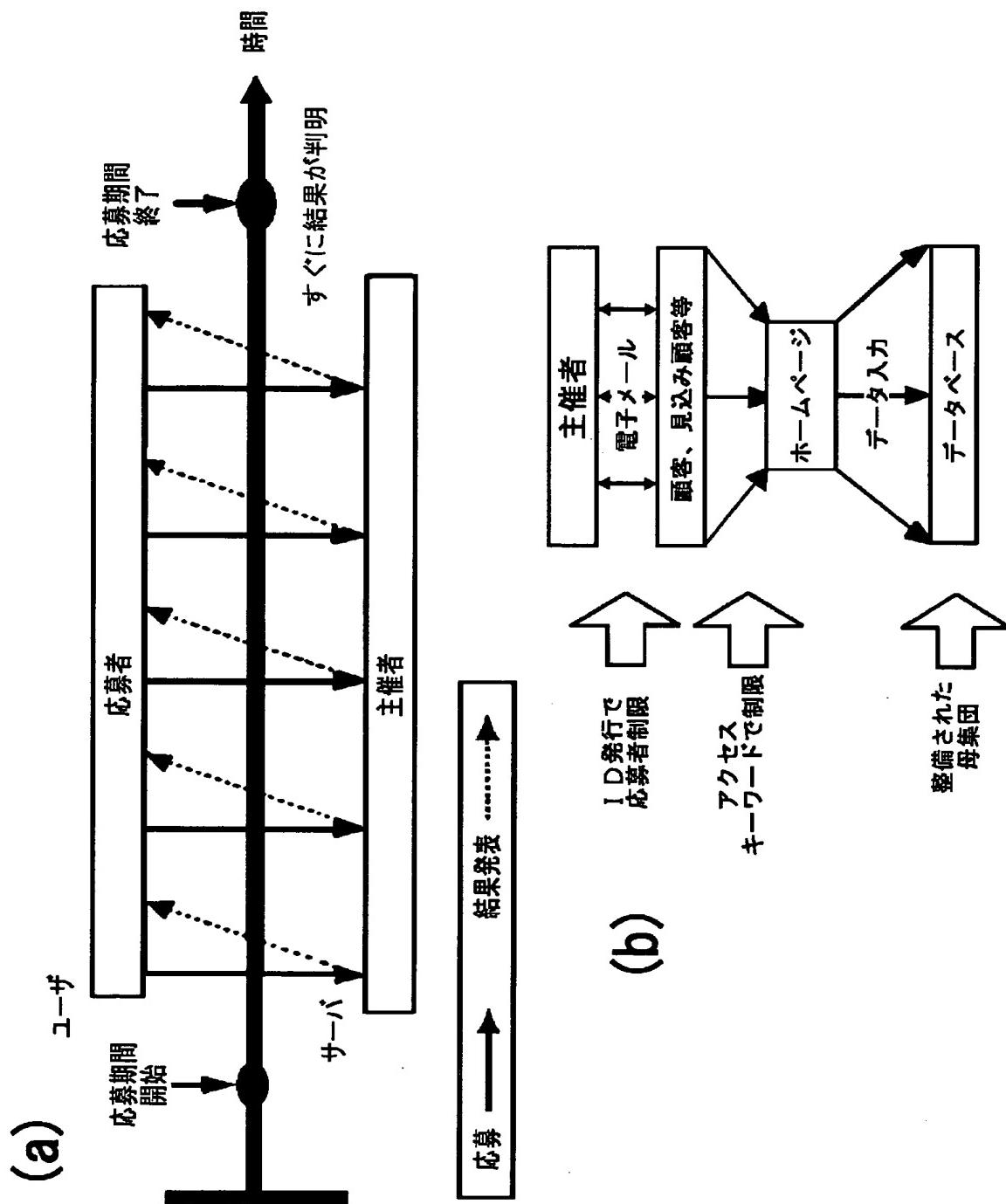
【図1】



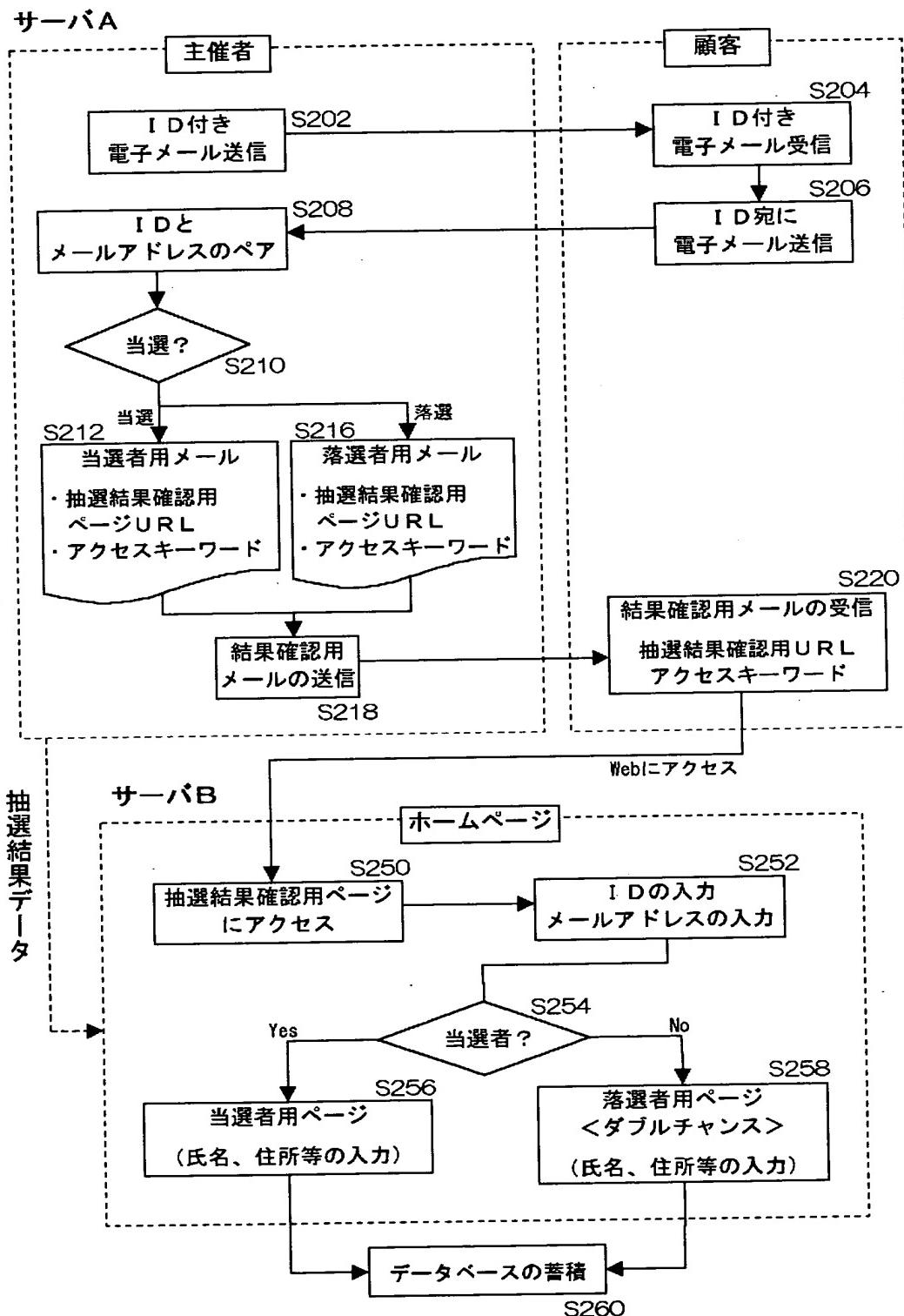
【図2】



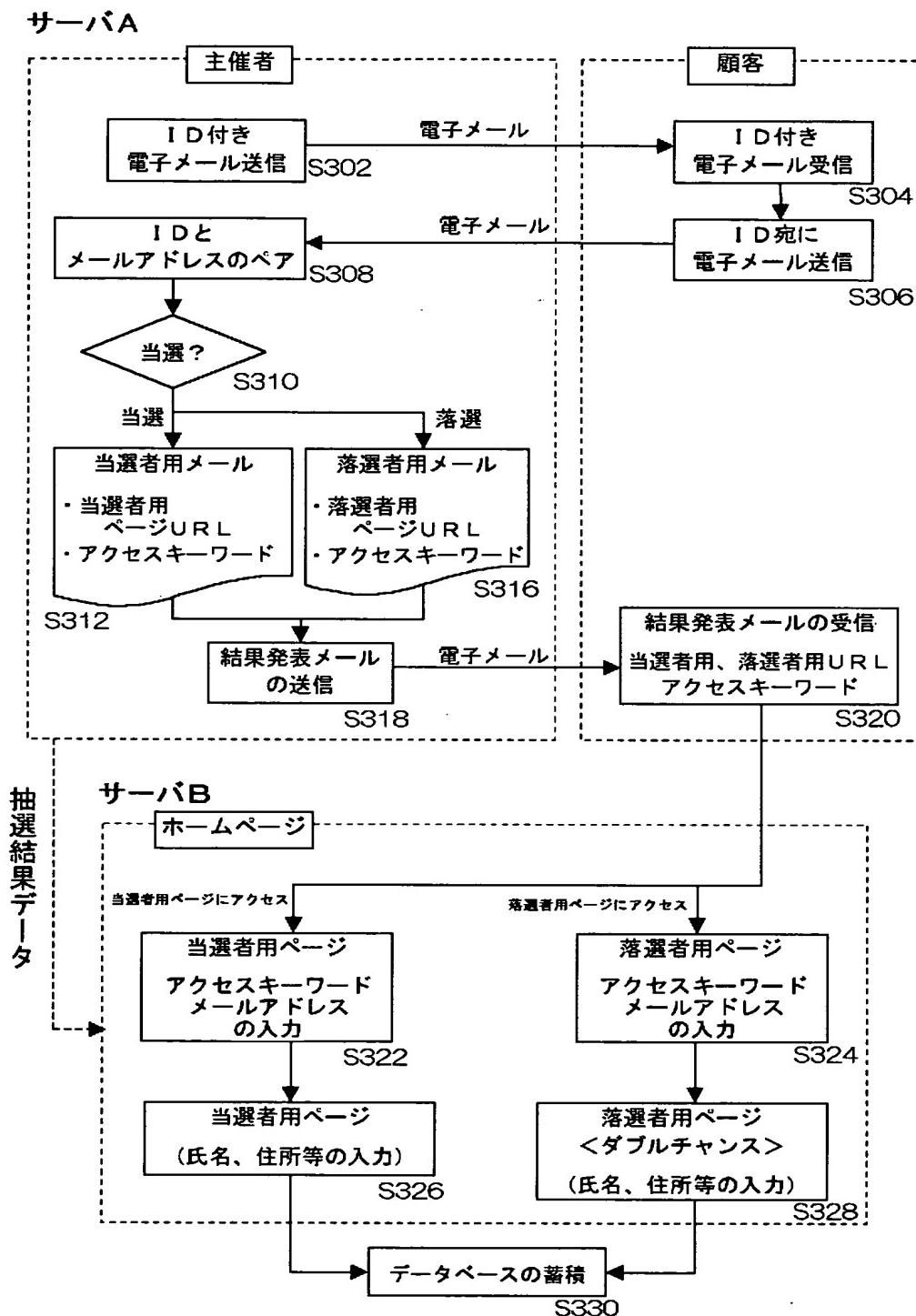
【図3】



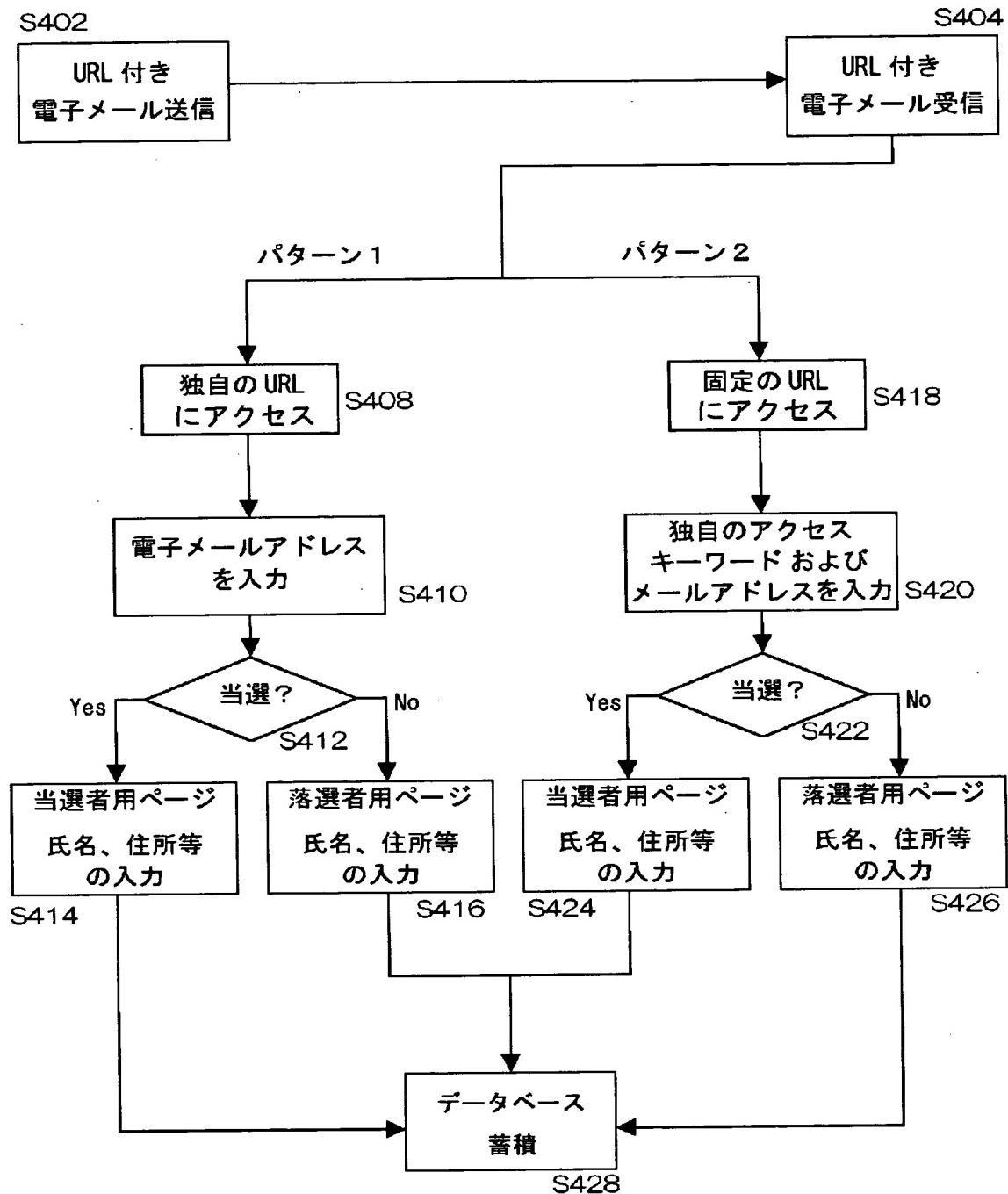
【図4】



【図5】



【図6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 くじへの応募者は応募後すぐに結果が判明するとともに、主催者は懸賞の対象者を事前に限定することができる、インターネットを利用したくじシステムの提供

【解決手段】 本発明のくじシステムでは、ユーザがくじに応募すると、その直後に抽選等の結果を電子メール等により知らせている。このようにして、ユーザが結果をすぐに知ることができるインタラクティブなくじシステムを構築することができる。また、くじの主催者から顧客や顧客見込みのユーザに対して、くじへの応募のためのアクセス・キー（ID等）を電子メールで送り、くじに対する応募者を制限している。

【選択図】 図3

認定・付加情報

特許出願の番号	平成11年 特許願 第247300号
受付番号	59900848594
書類名	特許願
担当官	坪 政光 8844
作成日	平成11年 9月17日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成11年 9月 1日
【特許出願人】	
【識別番号】	399037405
【住所又は居所】	東京都目黒区祐天寺2丁目8番16号 祐天寺K ・ I ・ T 4 階
【氏名又は名称】	楽天株式会社
【代理人】	申請人
【識別番号】	100105371
【住所又は居所】	東京都豊島区東池袋1丁目20番2号 池袋ホワ イトハウスビル 加古特許事務所
【氏名又は名称】	加古 進

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [399037405]

1. 変更年月日 1999年 6月16日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都目黒区祐天寺2丁目8番16号 祐天寺K・I・T4階
氏 名 楽天株式会社